



インド準備銀行(中央銀行)が利下げ

インド中銀は5月3日に開催した金融政策決定会合において、市場予想通り、主要政策金利の一つであるレポレート(貸出金利)を7.50%から0.25%引き下げ、7.25%にすると決定しました。1月、3月に続き、今年に入って3度目の利下げになります。ただ、会合後の声明では、中銀のタカ派的な姿勢に変化は見られず、インフレ上昇リスクや、慢性的な経常赤字とその埋め合わせの構造について考慮すれば、さらなる緩和余地は小さいとコメントしています。

最近の金や原油の国際価格の下落は、インドの経常収支の悪化を抑えてくれるでしょうが、しかし、インフレの抑制はより対処が難しい問題です。インドの代表的なインフレ指標である卸売物価指数の2013年3月の前年同月比上昇率は+5.96%(2月は同+6.84%)と、2009年11月以来40カ月ぶりの6%割れとなりましたが、食品価格の上昇を主因として、消費者物価指数はいまだに2桁の上昇率(3月CPIは前年同月比+10.4%)となっています。なお、インド中銀は、卸売物価指数を短期的に5%近辺、中期的に3%近辺に抑えることを目標として掲げています。また、2013会計年度(2013年4月～2014年3月)の平均上昇率は5.5%程度を見込んでいます。

インドが税制を変更

一方、インド政府は、外国人投資家の国債及び社債の利子所得にかかる源泉税率を、2013年6月1日付で20%から5%に引き下げる予定であることを明らかにしました。インドの現地通貨建て債券及び社債に対する外国人機関投資家の需要は増加傾向にあり、4月15日以降、約20億米ドル(フラトン社調べ)の資金流入があったと推計されています。源泉税率の低下はインドの国債市場やルピー相場に好影響を与えると予想されます。

格付け等の変更

スタンダード&プアーズ社(S&P社)は5月2日にフィリピンの自国通貨建て及び外国通貨建ての長期債格付けをBB+からBBB-に格上げしました。少ない対外債務や潤沢な外貨準備、落ち着いたインフレ率などを反映させた結果とされています。S&P社に先駆けてフィッチ・レーティングス社もすでにフィリピンを投資適格級(BBB-)に格上げしており、今回の格上げによってフィリピン国債市場とフィリピンペソに資金流入が加速すると予想されます。

一方、S&P社はインドネシアの構造改革機運の停滞を理由に、同国の格付け見通しを強含み(ポジティブ)から安定的(ステイブル)に変更しています。

マーケット情報

【アジア株式】

	(2013/5/3)	
	終値	前週比
ハンセンH株	10,846	△ 0.11%
香港ハンセン	22,690	△ 0.63%
インドムンバイ500種	7,414	△ 1.57%
ジャカルタ総合	4,925	▲ 1.07%
マレーシア総合	1,695	▲ 0.97%
フィリピン総合	7,215	△ 2.70%
タイSET	1,579	▲ 0.25%
ベトナムVN	475	△ 0.15%
韓国総合	1,966	△ 1.09%
台湾加権	8,135	△ 1.41%
シンガポールST	3,370	△ 0.63%

【アジア通貨(対日本円)】

	(2013/5/3)	
	終値	前週比
中国人民元	16.087	△ 1.16%
香港ドル	12.760	△ 1.04%
インドルピー	1.841	△ 2.16%
インドネシアルピア	1.016	△ 0.69%
マレーシアリングギット	32.602	△ 0.88%
フィリピンペソ	2.423	△ 1.94%
タイバーツ	3.333	▲ 0.49%
ベトナムドン	47.340	△ 1.02%
韓国ウォン	9.021	△ 2.23%
台湾ドル	3.350	△ 1.12%
シンガポールドル	80.240	△ 1.20%

出所:ブルームバーグ

※ アジア通貨は全て(アジア通貨/日本円)の為替レートであり、前週比のプラスはアジア通貨の対日本円での上昇を、マイナスはアジア通貨の対日本円での下落を表します。

※ インドネシアルピア・韓国ウォンは100倍、ベトナムドンは10,000倍で表示しています。



投資信託の主なリスク

投資信託は、主に国内外の株式や債券、その他の有価証券等を投資対象としますので、組入有価証券等の価格の下落や、組入有価証券等の発行会社の倒産や財務状況の悪化、また外貨建資産に投資する場合には為替の変動等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。したがって、ご投資家の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

また、投資信託は、投資対象資産の種類や投資制限、投資市場、投資対象国などが異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては目論見書や契約締結前交付書面等をよくご覧下さい。

お客様にご負担いただく主な費用

ご投資いただくお客様には以下の費用をご負担いただきます。

- 申込時に直接ご負担いただく費用……申込手数料 上限 3.675%
- 換金時に直接ご負担いただく費用……信託財産留保額 上限 0.5%
- 投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用……信託報酬 上限 2.31%
※一部のファンドについては、運用成果等に応じて実績報酬をご負担頂く場合があります。
- その他費用……上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。当該費用は運用状況等により変動しますので、事前に料率、上限額等を示すことができません。

上記に記載しているリスクや費用項目は一般的な投資信託を想定しています。

費用の料率につきましては当社が運用するすべての投資信託のうち最高の料率を記載しています。手数料の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間などに応じて異なりますので、表示することができません。投資信託に係るリスクや費用は、各投資信託により異なりますので、ご投資に当たっては、目論見書や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

投資一任契約の主なリスク

投資一任契約資産の運用においては、主に国内外の株式や債券、その他の有価証券等を投資対象としますので、組入有価証券等の価格の下落や、組入有価証券等の発行会社の倒産や財務状況の悪化、また外貨建資産に投資する場合には為替の変動等の影響により、損失を被ることがあります。したがって、ご投資家の皆様の投資元本は保証されているものではなく、組入有価証券の下落等により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

また、契約資産毎に、投資対象資産の種類や投資制限、投資市場、投資対象国などが異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、投資一任契約の締結に当たっては契約締結前交付書面等をよくご覧下さい。



投資一任契約においてお客様にご負担いただく主な費用

投資一任契約に係る費用は、契約資産の金額、投資対象、運用方法、契約期間等によりお客様と個別協議のうえ決定させていただきます。そのため、投資一任契約に係る費用の合計額については、事前に表示することができません。

- 契約の期間中にご負担いただく費用：……投資顧問報酬をご負担いただきます。適用する料率等は、投資対象資産、契約資産残高、契約内容等に応じて異なりますので、料率、上限額等を表示することはできません。
- その他費用……上記以外にご負担いただく費用（有価証券の売買委託手数料や有価証券の保管等に係る諸費用等）があります。これらの費用については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。また、投資一任契約に基づき投資信託を組入れる場合は、組入れた投資信託に係る信託報酬、信託財産留保額、その他の費用（監査費用、有価証券売買時の売買委託手数料、有価証券の保管等に係る費用等）をご負担いただきます。なお、当社が設定・運用する投資信託を組入れた場合は、必要に応じて投資顧問報酬の調整を行います。

詳しくは契約締結前交付書面等でご確認ください。

当資料に関してご留意いただきたい事項

当レポートはマーケット情報の提供を目的として、アストマックス投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当レポートはフラトン・ファンド・マネジメント・カンパニー・リミテッド（フラトン社）の作成した“THE FULLERTON WEEKLY”を参考にしております。レポート中の市場見通しや投資戦略等は、特に断りのない限りフラトン社の見解を示しています。

当レポートは、信頼できると判断した情報に基づいて作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、当レポート中に記載している内容、数値、図表、意見等は資料作成時点のものであり、今後予告なく変更することがあります。当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。

アストマックス投信投資顧問株式会社の事前の承諾なく、当レポートの内容を転載または複製することはご遠慮ください。



アストマックス投信投資顧問株式会社

〒141-0022 東京都品川区東五反田 2-10-2 東五反田スクエア 5 階

商号等： アストマックス投信投資顧問株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第 387 号

商品投資顧問業者 農経（1）第 21 号

加入協会：一般社団法人投資信託協会／一般社団法人日本投資顧問業協会／

日本証券業協会／日本商品投資顧問業協会

※ 当社は平成 25 年 4 月 1 日付でアストマックス投資顧問株式会社と合併し、商号をITCインベストメント・パートナーズ株式会社からアストマックス投信投資顧問株式会社に変更しました。